

No.136

令和7年10月1日発行

診断ひょうご

一般社団法人 兵庫県中小企業診断士協会 発行者 植田 訓行

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-8-4 神戸市産業振興センター8階
TEL (078) 362-6000 FAX (078) 361-8722 URL: <https://www.shindan-hg.com>

「中小企業診断士の日」記念イベントを開催

未来を創る ビジネスプランコンテスト2025
最終プレゼンテーション・表彰式 62チームの頂点を決める

兵庫県内の大学生を対象とした「未来を創るビジネスプランコンテスト2025」の最終プレゼンテーション・表彰式を、本年度の「中小企業診断士の日」記念イベントとして11月8日（土）に開催します。

兵庫県中小企業診断協会として初めての取り組みでしたが、4月1日のイベント開始からエントリーは順調に増え、6月10日（火）の締め切りまでに62チームから応募をいただきました。想定を上回る応募に喜ぶ間もなく、中小企業診断士による個別相談会を経て、最終的に52チームから一次審査への応募がありました。どのプランも熱意と独創性にあふれ、大変レベルの高い内容でした。そのため審査はまさに僅差の戦いとなり、最終的に6チームのプランを選出しました。

この6チームによる最終プレゼンテーションを、「中小企業診断士の日」記念イベントとして実施します。大賞および特別賞は、審査員と会場参加者の投票で決定する計画です。6チームのプランは、兵庫県の将来を担う若者の考えを反映しており、我々中小企業診断士にとっても学びや参考になるものです。ぜひ奮ってご参加ください。



未来を創るビジネスプランコンテスト2025

実行委員会委員長

石川 梨絵子

実行委員

上田育功、富松誠、稲垣賢一
岡部清一、後藤雅明、豊田孝治
平山知明、藤原康平、森本太
福永栄一

実施概要

日時 2025年11月8日（土）
13:00 開始会場 ハーバーホール
（神戸市産業振興センター3階）
神戸市中央区東川崎町1丁目8番4号
（神戸ハーバーランド内）

定員 200名限定（先着順）

参加方法 右のQRコードから応募フォームへアクセスしてください



「未来を創るビジネスプランコンテスト2025」活動報告

当該コンテストは昨年9月にプロジェクト形式で立ち上がり、本年度からは「未来を創るビジネスプランコンテスト2025」実行委員会として活動しています。ここでは本年度の取り組みを報告します。

ビジネスプランコンテストの概要

全体スケジュール	
専門家による動画公開	4月1日～7月10日
エントリー	4月1日～6月10日
個別相談会(専門家の支援)	6月28日
ビジネスプラン締切	7月10日
一次選考結果発表	8月11日
一次選考後の専門家支援	8月下旬～10月下旬
最終プレゼンテーション選考	11月8日

テーマは「未来の世界を創造するビジネスプラン」、
応募資格は兵庫県内の大学に在籍する学生(個人ま

たはグループ)です。学生のメリットとして「学びの集大成」、「社会人力の向上」を掲げ、ゼミ単位で授業の一環としても参加できることを意識しました。

また、中小企業診断士の知名度を高めるために、これから社会に出て活躍する大学生を対象としました。診断士と学生と一緒にプランを考えることで、資格や仕事への理解を深めてもらえると思います。そこで「専門家の支援:中小企業診断士によるビジネスプラン作成サポート」を、プラン検討中(プラン申請前)に診断士によるサポートを受けられるようにしました。

専門家による動画公開

一次審査の応募をしやすくするために、ビジネスプランの内容をチーム名、プランの概要、詳細、お客様、実現に必要なもの、トラブルと対応方法、売上高の目標の7つに限定し、それに合わせた申請書を作りました。さらにYouTubeでビジネスプランシートの書き方

を3回(合計約19分)に分けて解説しました。「100円均一! 美味しくて安心なお惣菜であなただけの健康を応援」を具体例にして解説しています。



YouTube

エントリー：62チーム

エントリーを増やすために、実行委員が兵庫県の大学やコンソーシアムを訪問して参加依頼をしました。大学のゼミを訪ね、ゼミの時間に説明することもあり

ました。YouTubeでエントリーを広報し、Instagram
では、エントリーに加えて、1次審査応募や個別支援
などを随時広報してきました。

YouTubeでのエントリー広報

ビジネスプランコンテストの概要

**来たる！
「未来の世界を創造する」ビジネス**

【コンテストの概要】

- 参加する5つのメリット
 - Point ① 学びの集大成＝就職活動のガクチカ
 - Point ② 社会人基礎力の養成
 - Point ③ 起業家・経営者マインドの養成
 - Point ④ 経営の専門家による伴走支援
 - Point ⑤ 優れたプランの表彰

経営コンサルタント唯一の国家資格 “経営”に広く精通した士業

中小企業診断士は、中小企業の経営課題に対応するための診断・助言を行う専門職です。
法律上の国家資格として、「中小企業支援法」第11条に基づき、経済産業大臣が登録します。

中小企業基本法では、中小企業者が経営資源を獲得するための業務に従事する者と位置づけられています

実施スケジュール

1. エントリー開始
4月1日
2. 中小企業診断士による支援
5月下旬～7月上旬予定（動画による説明・任意参加）
3. 応募書類バッチ
7月10日
4. 書類選考
7月中旬～8月中旬予定
5. 中小企業診断士による支援part2
8月下旬～10月中旬予定（スクーリング・3回までのメンターとの面談）
6. ファイナリストによる発表・選考(本番)
11月8日(土)

審査基準

審査項目	内容
実現可能性	プランの実効性
維持継続性	中長期的に継続可能なか

エントリーシートの内容

ビジネスプランの概要
ビジネスプランの概要欄には、ビジネスプランの目的・目標・事業計画の概要を記載してください。また、ビジネスプランの概要欄には、ビジネスプランの概要欄に記載されている内容を簡潔にまとめてください。

【エントリーシートの提出方法】
エントリーシートは、以下のリンクからダウンロードして印刷し、必要事項を記入の上、封入してください。

【お問い合わせ先】
事務局：中小企業診断士協会
TEL: 03-6362-1111
Eメール: info@jicpa.or.jp
ウェブサイト: www.jicpa.or.jp

一步を踏み出そう！
積極的なご参加をお待ちしております！

問い合わせ先
一般社団法人日本企業診断士協会
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
電話: 03-6362-1111
FAX: 03-6362-1112
Eメール: info@jicpa.or.jp
ウェブサイト: www.jicpa.or.jp

7枚程度を記載

個別相談会：25チーム

8大学25チームから申込があり、6月28日に4つの時間帯に分けて実施しました。各チームには診断士2名（実行委員と青年部会の有志）が担当し、学生と一緒にプランを検討しました。相談内容の答えを直接示すのではなく、学生との対話の中でヒントを与えて学生に考えてもらうようにしました。参加学生からは、「他にもビジコンはありますが、支援がなかったです。」「こういう機会（支援）があるので参加しました。」「提出前にアドバイスを頂けたことで、より深く考えることができ、このような機会は貴重でした。」などの感想が寄せられました。診断士の資格に興味があるという学生もいました。診断士の仕事や資格の魅力を知ってもらうきっかけになったと思います。



相談会の様子



一次審査応募：52チーム

経営学部が最も多く18チームでした。経済学部、国際商経学部、商学部の4つで32チーム、全体の6割を超えます。経営系が多い一方、社会情報学部や心理学部、外国語学部などからも応募があり、幅広い関心を集める結果となりました。

応募時のアンケートでは、「中小企業診断士の方と相談することができるところが参加しやすかったから」、「将来、起業などを行う時にビジネスプランを考える枠組みを学べるから」、「自身の大学での学びが生きたから」といった声があり、掲げていた学生のメリットがしっかり伝わったと実感しました。

一次選考結果

どのプランも熱意と独創性にあふれる大変レベルの高い内容でした。実行委員会で審査しましたが、甲乙つけがたく僅差の戦いとなり、その中で以下の大学に所属する6チーム（順不同）が選考されました。

兵庫県立大学* 神戸女子大学 芸術文化観光専門職大学
神戸市外国語大学 武庫川女子大学 *2チーム選考

一次選考後の専門家支援

一次審査を突破した6チームは希望すれば、診断士によるプラン検討、発表資料の作成、プレゼン練習など最大3回の個別支援を受けることができます。9月16日現在、2チームに対して各1回の個別支援が終了し、3チームに対して合計4回の支援が予定されています。最終選考までできる限り支援を続けます。

Instagramでの広報



Instagram

令和6年度・調査研究事業

中小企業が最小限の取り組みで 最大のメリットを得られる GX手法”ミニマムGX”の調査研究

報告：中小企業 GX推進研究会

はじめに

気候変動は地球規模の課題であり、脱炭素社会の実現は、現代社会においてもはや選択肢ではなく必須の責務となっている。2015年のパリ協定以降、EUを中心とする各国が積極的に脱炭素政策を推進し、直近ではトランプ政権再発足による米国の政策転換など個別の事情は見られるものの、国際社会としての潮流は変わらずに推進されると想定される。

国内においても各産業部門で脱炭素化が進んでおり、大企業が中心となって企業単位での取り組みを進めてきた。しかし、ここへ来て産業全体の変革という視点から中小企業もその役割を担わざるを得ない流れになっている。既に、取引先から製造や輸送に関わるエネルギーのデータの提出や省エネの方針策定を求められるケースも出ており、中小企業診断士や支援機関への相談も増えている。中小企業の場合は、大企業と比較してコストや人材不足、ノウハウの欠如といった点で障壁がある一方、いち早く行動を起こした企業は大きな先行者利益を享受できる可能性もある。

当調査研究事業は、これら背景を踏まえ、兵庫県内の製造業を中心とした中小企業について、脱炭素の取り組み状況やその意義、課題を調査し、中小企業が現実的に実施可能なGX（グリーントランスフォーメーション）について提言を行うものである。

県内中小企業の状況調査

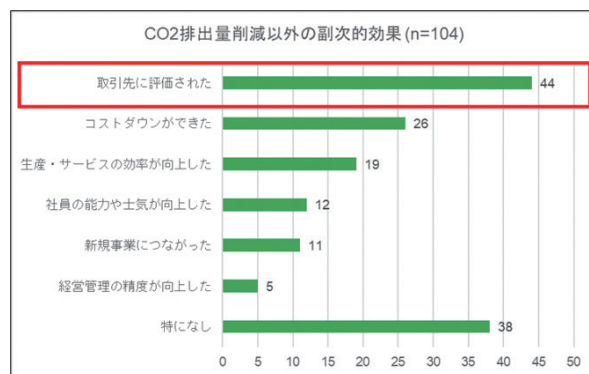
調査研究事業として、まずは支援機関（ひょうご産業活性化センター、神戸市産業振興財団）、および金融機関のご協力を得て、県内中小企業へアンケートとヒアリングを行った。加えて、「省エネお助け隊」として活動されているGXの支援団体にもヒアリングを実施し、企業と支援する側の双方の実態や意向を把握した。その結果下記状況を把握した。

- ・当分野に関係する項目として、「脱炭素」「SDGs」「カーボンニュートラル」などの認知度は80%以上になっている。
- ・具体的な取り組みとしては、「CO₂排出量の把握」「補助金の活用」「太陽光発電の導入」などが上位を占めている。

・調査対象企業の20%が、「取引先からCO₂排出量削減」を要請されている。

・取り組みを進める上での障害は「コスト負担」「人員不足」「専門的知識の欠如」等。

合わせて、既にGXを進めている先進企業からは、「取引先の評価」「コストダウン」などの副次的効果も言及されている。



分析・考察と事例

調査内容の分析から見てきたのは、脱炭素に関して豊富な経営資源を活用できる大企業とは異なる、中小企業特有の状況である。加えて、単に省エネという面だけではなく、昨今の燃料費高騰上昇への対応など、事業の存続についての視点からも取り組む必要性が浮き彫りにされた。つまり中小企業にとって重要なのは「脱炭素」よりも事業全体の改善を視野に入れた「GX」とであると考察した。については、中小企業にとって「あるべきGXの姿」とは何かを下記のように設定した。

- ①環境配慮型生産によるビジネスの競争力向上
コスト削減、収益性改善、製品価値の向上、社会的な信頼性の獲得
- ②ステークホルダーの脱炭素化に貢献する価値創造
CO₂削減の方策提言、顧客ニーズに即応した省エネ製品の開発
- ③脱炭素化に向けた組織の構築
目標設定とPDCAの活用、現場人員の教育、組織文化の醸成

上記の指摘と同時に、これら項目を実践する県内企業の下記事例を取りまとめた。

日精テクノロジー(株)
取引先の要請など外部状況の変化にいち早く対応し、製品ごとのCO2排出量の算定を進めている。
(株)山本電機製作所
電力使用量の把握、部門ごとの環境目標の達成をPDCAサイクルの徹底で実現している。
奥井電機(株)
中小企業版SBT認証を取得している。また、本業である配電・制御システム製品や計画機器の製造を通じて、顧客企業の脱炭素への貢献を進めている。
屋上緑化システム(株)
本業である屋上緑化や太陽光パネル設置事業を通じて、自社のみならず顧客の脱炭素にも貢献している。

中小企業のGX推進における課題

中小企業にとっての「あるべきGX推進の姿」の設定、およびその実践企業のヒアリングを通じて、下記課題が見えてきた。

①GX推進に向けた経営基盤の構築
外部支援の活用、内部人材の育成、CO2排出量の測定体制・設備投資
②GX推進体制の強化
経営者のリーダーシップ、判断基準の明確化、社内ノウハウの蓄積、組織文化の醸成
③GX推進の定着化
目標設定、PDCAサイクルの確立、組織改善の視点

①～③に関しては、中小企業診断士の視点として、特に経営および組織の改善を重視している。

“ミニマムGX”の提言

上述のように、中小企業が脱炭素を含めたGXを推進する場合、経営資源に限られる中、最小限のコストや手間で最大限の効果を実現する手法が求められる。当調査研究事業ではこれを「ミニマムGX」と名づけ、その具体的手法を下記のように整理し、提言する。

【省エネ・省コストの実現】
エネルギー使用量の可視化を進め、小規模な省エネ投資を繰り返す。その際、適切な投資判断を行う各種ツールも活用する。
【補助金・支援制度の活用】
各種補助金や公的機関・専門家の支援制度を積極的に利用する。また、省エネ診断やSBT認証の活用により取引先の要請に添えていく。
【デジタル技術の戦略的導入】
IoTやAI技術により、エネルギー使用状況を可視化・分析することで管理を効率化する。当該技術は、省エネ効果を最大化し競争力を向上させるうえで効果的である。

以上、中小企業のGX推進において重要な点は、経営改善の視点を持って、方針を策定した後、自社に足りない経営資源(資金、人材、知識など)を見出し、適切な外部の支援を活用しながら、最小規模の取り組みを繰り返して効果を測定し、改善を進めていくことである。

(兵庫県の支援制度の例) ※令和6年時点



研究会として

上述のように、中小企業が脱炭素を含めたGXを推進する場合、今般の調査研究事業を推進する土台として、平行して「中小企業GX推進研究会」を立ち上げ、活動中である。調査研究の内容を引き継ぎ、外部への発信を含め、継続して取り組みを進めるためである。今年度は公的機関の専門家派遣においても、GXの項目が登場し、支援の土台が作られつつある。研究会としては、こうした支援機関との連携も図りたい。

昨年度は調査研究を通じて「総論」を作成した。今年度は活動の場を研究会に移し、「各論」として具体的な支援の方法や各人のノウハウ蓄積を進めていく所存である。

(中小企業GX推進研究会ホームページ)

<https://lab.min-gx.com/>



(研究会メンバー) ※五十音順

乾竜夫、井上和茂、岡文偉、加藤慎祐、木下健、楠田貴康、高倉啓成、西本文雄、三重野琢穂、茂呂晃良、横山哲朗、吉岡翼、和田光典

研究会レポート

事業性評価研究会の取り組みについて

1. 事業性評価研究会の概要

研究会設立のきっかけは、令和元年度に実施した調査・研究事業「事業再生（経営改善）の取組における問題点・課題の把握と金融機関の連携による中小企業診断士の支援の在り方を提言」をテーマとした活動により、本事業に参画したメンバーの意識が高まり、さらに本調査研究を発展させて活動していきたいとの思いが強くなり、令和2年4月に「事業性評価研究会」を立ち上げました。設立当初は、会員メンバーが7名と少なく、人財面・資金面で研究会活動に限界がありました。さらに、当研究会の設立直後にコロナ禍となったことも重なり、研究会活動の中断を余儀なくされる時期もありました。しかし、地道な活動が評価され、令和6年度は当協会の研究会支援事業表彰を受けることになりました。会員数も47名（令和7年7月末現在）にまで拡大し、現在に至っています。

2. 事業性評価とは

事業性評価とは、一般的に下記の通り定義されています。

「事業性評価」とは、地域金融機関の金融仲介機能において、品質の決め手となるものを「事業性評価」と呼んでいる。具体的には、ローカルベンチマークの導入、知的資産経営報告書や経営デザインシートの作成等により、担保・保証人に依存しない融資を推進するとともに、広義では地域金融機関のコンサルティング支援を強化することを意味する。

（一般社団法人中小企業診断協会 2019年8月号企業診断ニュース：日下智晴 金融庁 地域金融企画室長「事業性評価に基づく融資における経営デザインシートの活用」より）

地域金融機関は、金融庁から「事業性評価」を積極的に推進することが求められており、事業性評価を重視した中小企業の経営支援を強化している状況にあります。よって、地域金融機関は中小企業診断士等の外部専門家を活用して、中小企業の経営支援を強化しており、中小企業診断士に対する期待も非常に大きくなっています。これらの背景をふまえ、当研究会は金融機関が重視する「事業性評価」を深く研究することにより、我々中小企業診断士のスキルアップを図りたいと考えています。

3. 活動内容

活動内容は、多様な専門家を講師に招き「事業性評

価」の知見を高めます。また、中小企業の支援事例について、支援における課題や問題点をメンバー間で議論し、中小企業の支援ノウハウの向上を図っています。「事業性評価」を広義に捉えて、幅広いテーマで活動を行っています。

令和7年度の最初の研究会活動は、「知的資産経営」の第一人者である森下勉中小企業診断士と原一矢中小企業診断士を講師に招きました。知的資産の基本構造である3分類（人的資産・組織資産・関係資産）を把握し、財務諸表では伝わらない価値、目に見えない価値をどう伝えるかということの重要性を学びました。また、「知的資産経営」は知的資産のつながりが価値を生むという「価値創造ストーリー」を具現化するものであることを理解しました。さらに、「知的資産経営報告書」を作成した支援事例（旅館業・福祉事業）を通じて、知的資産経営の方向性について、会員間で議論を行いました。



令和7年5月28日
森下勉氏

令和7年6月25日
原一矢氏



4. 入会について

当研究会は、原則毎月第4週目の水曜日の午後6時30分から開催しています。（但し、8月・12月・4月は休会とする。）会場は、神戸市中央区文化センター（神戸市中央区東町115）です。また、当研究会の規約により、下記の三つの会員資格を設けています。

- ①兵庫県中小企業診断士協会の会員であること
- ②年会費（5,000円）を納入すること
- ③「事業性評価」について、真摯に研究する意欲があること

事業性評価研究会に関心がございましたら、下記までご連絡ください。

事業性評価研究会 会長 西口延良
メール:ANC11775@nifty.com
携 帯:090-3925-4809



若手診断士のためのワークショップ「Wasshoi」を開催します 10月19日(日)

今年も資格取得後のキャリアや専門性を模索する診断士向けのワークショップ&交流会を開催します！今年オリジナルティあふれるキャリアを持つお二人の診断士に登壇いただき、様々な角度からの質問でパネルトークをした後、ご自身の今後の姿を思い描きグループで交流をいたします。昨年度要望があった懇親会も開催予定です。診断士同士の交流を深めたい、他の人のキャリアを参考にしたいという方、ぜひご参加ください！

※少人数でアットホームに交流する予定です。協会に入会したけど活動に参加できてない、協会活動から

少し足が遠のいている方も安心してご参加ください。兵庫県中小企業診断士協会の会員でなくとも、有資格者並びに登録予定者は参加いただけます。

詳細および参加申し込みは下記のURLにアクセスしてください。

<https://wasshoi2025.hp.peraichi.com/autumn>



ニュース

NEWS

■「理論政策更新研修」を実施

当協会主催の本年度「理論政策更新研修」は、8月29日(金)、9月5日(金)、9月13日(土)の日程で3回を実施しました。内容は、伴走型中小企業支援策としてGX支援策を、また、災害対策を視野に入れた事業継続力強化支援策の提案など、実践から得られた知見に基づいて解説されました。台風の到来など開催が危ぶまれる事態もありましたが、いずれも予定通りの開催ができました。

■新入会員ガイダンス&歓迎会・交流会を開催



去る6月7日、「新入会員ガイダンス&歓迎会・交流会」を神戸市産業振興センター並びにマーカス

クエア神戸にて開催しました。前半のガイダンスでは各委員会・研究会の活動を紹介、後半の歓迎・交流会では新入会員の自己紹介や委員会・研究会の個別相談などを実施し、協会と新入会員との親交を深めることができました。



■令和8年の主な協会行事の日程が決定

令和8年(2026年)の主な協会主催行事について、以下の日程での開催を予定しています。会員の皆さまには、積極的な参加をお願いいたします。

- ・新年会 1月17日(土)
- ・定時社員総会 5月27日(水)
- ・新入会員歓迎会 6月20日(土)

委員会報告

6月～9月

● 総務委員会

委員会開催日	主な議題
6月3日(火)	総会・懇親会の振り返り、理論更新研修、新入会員ガイダンス
7月1日(火)	新入会員ガイダンス、理論更新研修、経営診断実務研修
8月5日(火)	理論更新研修、経営診断実務研修、理論更新研修
9月2日(火)	理論更新研修(第1回目振り返り、今後の運営について)、経営診断実務研修、新入会員ガイダンス、規定の改定案の検討

● 会員研修委員会

委員会開催日	主な議題
6月23日(月)	スキルアップ、オープンセミナー
7月28日(月)	スキルアップ、オープンセミナー
8月25日(月)	スキルアップ、オープンセミナー
9月22日(月)	スキルアップ、オープンセミナー

● 広報委員会

委員会開催日	主な議題
6月25日(水)	・会員情報管理のKintoneへの移行について ・協会WEBサイトの活用(改修含む)について
7月23日(水)	・診断ひょうごのページ構成について ・協会WEBサイトの活用(改修含む)について ・数値目標の設定について
8月27日(水)	・診断士のビジネスコンテストについて ・協会WEBサイトの活用(改修含む)について ・協会忘年会及び来年度の協会行事について
9月度は9月24日(水) 18:30～開催予定で、協会WEBサイトの活用や新たな取材等について議論の予定。	

● 受託開発委員会

委員会開催日	主な議題
6月11日(水)	今年度受託開発実績予想
8月 6日(水)	今年度受託開発実績予想
今年度の受託開発目標500万円について、7月末時点で430万円の案件を確保済みです。目標達成に向けて、営業活動に尽力中です。	

今後の予定

セミナー・催事

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
10月19日(日) 13:00～17:00	神戸市産業振興センター801	Wasshoi「若手診断士向けワークショップ&交流会」	白川泰憲氏・倉橋佑也氏
10月30日(木) 18:30開催	オンライン開催(Zoom)	実力養成講座「BtoC事業(小売・飲食・サービス業)編」	木之下尚令氏
11月12日(水) 18:30開催	オンライン開催(Zoom)	実力養成講座「BtoB事業(製造業)編」	西本文雄氏
11月22日(土) 13:30～16:30	神戸市産業振興センター902+903	中小機構の活用術	岡部清一氏

※連絡先: (一社)兵庫県中小企業診断士協会事務局 info@shindan-hg.com

日 時	場 所	テ ー マ
2026年1月17日(土)	神戸メリケンパークオリエンタルホテル	新年会

研究会スケジュール

問い合わせ先: 078(362)6000

● 診断技術向上研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
10月9日(木)	神戸市産業振興センター902号室	公的支援機関様のご講演(予定)	未 定
※開催日: 原則第2木曜日 時間: 18:30～20:30 ※連絡先: 代表 楠田 貴康(くすだ たかやす) tkusuda2002@gmail.com			

● HOO経営研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
10月は予定なし			
代表 塔筋 幸造 ※開催日調整中 ※連絡先: 塔筋 幸造 kozo@kmba.co.jp			

● プロコンスキル研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
10月開催は無し			
11月10日(月)	神戸市産業振興センター905室	第101回 支援事例等による実践スキルの研鑽	①岩倉 信欣氏 ②西本文雄氏
※開催日: 原則奇数月の第2月曜日 時間: 18:30～20:30 ※連絡先: 井上 英治 hideharu2021@gmail.com, 草壁 聡 kusa0615@yahoo.ne.jp (参加はプロコン育成塾修了者と講師に限りです)			

● 青年部会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
10月 6日(月)	中央区文化センター AND WEB	企業の支援方法・スキルの共有等	全 員
11月10日(月)	中央区文化センター AND WEB	企業の支援方法・スキルの共有等	全 員
※開催日: 原則第1月曜日 時間: 19:00～21:00 ※参加資格: 49歳以下の会員 ※連絡先: 白川 泰憲 shirakawa19800627@gmail.com			

● ひょうごSDGs経営研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
10月 2日(木)	中央区文化センター 1008号室	企業交流会運営と当日の役割分担について	全 員
10月18日(土)	神戸酒心館ホール	ひょうごSDGs先進交流会 開催	全 員
※開催日: 原則、第1木曜日 ※連絡先: 代表 吉田 悦雄 withink2022@gmail.com			

● ものづくり&SCM研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
10月4日(土)	中央区文化センター	①「経営者の右腕になる AI時代のITコンサルタント」 ②「金融機関を理解して資金繰り改善」	①佐々木信也氏 ②澤谷義則氏
11月1日(土)	未定	①書籍紹介 ②事例発表	①指尾成俊氏 ②石川聡氏
※開催日: 原則第1土曜日 時間: 14:20～17:00(1、5、8、12月除く) 企業内・開業問わず、経営全般の幅広い情報交換と相互研鑽を目指しています。製造業以外の方も多数参加しています。 ※連絡先: 三村 光昭 QZE02753@nifty.com			

● Shobai Lab. (商業研究会)

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
10月16日(木)	神戸市中央区文化センター	商業の診断実務	会 員
※開催日: 毎月第3木曜日 時間: 18:30～21:00 ※連絡先: 代表 林 直樹 ink.hayashi@iris.eonet.ne.jp			

● 事業性評価研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
10月22日(水)	神戸市中央区文化センター1001号室	診断士業務における生成AI活用	中小企業診断士 久保井篤史氏
※開催日: 毎月第4月曜日 時間: 18:30～20:30(4、8、12月除く) ※連絡先: 代表 西口 延良 ANC11775@nifty.com			

● ひょうごデジタル経営研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
10月28日(火)	Zoom会議室	調整中	西川和予氏
※開催日: 毎月第4火曜日 ※連絡先: 代表 山上 和男 ymgmkzo@gmail.com			

● 中小企業GX推進研究会

日 時	場 所	テ ー マ	講 師
10月15日(水)	Zoom	GX支援に関する基礎勉強会	研究会メンバー
※開催日: 毎月第3水曜日 時間: 18:30～20:30 ※連絡先: 代表 加藤 慎佑 MLD11291@nifty.com 又は info@kato-rmc.biz			

※各スケジュールは変更になることがあります。

編集後記

暑さの厳しかった夏も和らぎ、ようやく秋の訪れを感じます。実りの季節にふさわしく、彩り豊かな取組みや行事が目白押しです。新たな楽しみや出会いをもとめ、また一つ歩みを重ねていきたいと思っています。(石川)